

# 第3回「チームサイエンスの科学の 日本での推進 × ハテナソン」

ここ20年、チームベースで行う研究活動(チームサイエンス)に対する大規模・戦略的な投資が増える中、チームサイエンスの科学(Science of Team Science/SciTS)が注目を集めている。SciTSとは、実証的根拠に基づきチームサイエンスに対する研究開発、人材育成、実施支援を行い、チームサイエンスの効果・効率の最大化、科学的・社会的インパクトの解明、アカデミアの構造変容を目指す学際的教育研究分野である。日本では、SciTSが扱う課題への関心が高い。しかしながら、SciTSのような横断的・実証的・応用的な取組はまだ見られない。

このような状況下、本企画では、SciTSとはどのような学術分野であるかを紹介し、多様な参加者と一緒にハテナソン(質問を創るワークショップ)を通じて、日本におけるSciTSの推進を探求する。

## プログラム

? × IDEA = FUTURE

13:30-15:50  
ハテナソン  
課題抽出

15:50-17:20  
アイディアソン  
行動計画

17:20-18:00  
語るアワー  
未来展望・予測

日時：2018年3月27日(火)，13:30-18:00，30分前から入場可  
会場：京都大学附属図書館ラーニングコモンズ（入館時に受付手続き要）  
（アクセス）<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/map/12008>  
参加費：無料 定員：40名まで（お申込先着順）  
対象者：チームサイエンスやハテナソンなどに関心を持つ方  
お申込サイト：[https://form.jst.go.jp/enquetes/SciTS\\_hatenathon\\_20180327](https://form.jst.go.jp/enquetes/SciTS_hatenathon_20180327)  
お申込締切日：2018年3月25日（日）  
お問い合わせ先：科学技術振興機構 社会技術研究開発センター（RISTEX）  
王 (Email) [ge.wang@jst.go.jp](mailto:ge.wang@jst.go.jp) ; (TEL) 03-5214-0133

## タイムテーブル

13:30-13:35	開会挨拶 宮野 公樹 (Cpier)	趣旨説明 王 戈 (TSC/RISTEX)
13:35-15:50	ハテナソン ファシリテーター 佐藤 賢一 (ハテナソン共創ラボ)	
13:35-13:50	ウォーミングアップ	
13:50-14:25	インプットトーク「チームサイエンスの科学とは」王 戈	
14:25-14:30	休憩	
14:30-15:50	質問出し	
15:50-17:10	アイデアソン	
17:10-17:20	休憩	
17:20-18:00	SciTS の日本推進の未来を語るアワー 司会:宮野 公樹, 登壇者:大澤 剛士(AFFRC)・王 戈・佐藤 賢一	

(18:30~20:30 Cpier 主催異分野交流会にも是非ご参加ください。会場:京都大学国際交流セミナーハウス)

## ハテナソン・インプットトーク (概要)

### チームサイエンスの科学とは / What is Science of Team Science ?

2006年にアメリカでSciTSという言葉が使われてから、SciTSは急速な発展をとげた。その知見は英語圏先進国が主導する公共衛生や環境などの社会的介入プログラムや研究現場、研究者トレーニングや大学院教育の現場、研究教育にかかる政策策定の現場、研究投資の現場などで活用されている。本報告はSciTSに関する動向調査の結果および日本の有識者に対するインタビューの内容を報告・考察する。

## 登壇者略歴(五十音順)

**大澤 剛士(おおさわ たけし)** (研)農研機構 農業環境変動研究センター(AFFRC) 主任研究員。博士(理学)。専門は生物多様性情報学。生物の分布情報を中心に、環境科学に関わる各種情報のデータベース化、オープン化および、それらを利用した研究に取り組んでいる。近年では応用研究が実務に生かされないという研究—実務間ギャップ問題の解決を目指した活動にも力を入れている。

**王 戈(おう か)** 科学技術振興機構社会技術研究開発センター(RISTEX) アソシエイト・フェロー / 任意団体 TSC 代表  
お茶の水女子大学博士後期課程退学(社会心理学)。2014年 JST 入社、社会技術基礎調査を担当。それまで、大学で常勤・非常勤研究員歴9年、心理学非常勤講師歴4年、教育研究支援専門職員歴1年。2017年12月 TSC を設立。

**佐藤 賢一(さとう けんいち)** 京都産業大学 教授 / NPO 法人ハテナソン共創ラボ 理事長 / 科学技術振興機構プログラムマネージャー育成・活躍推進プログラム第2期研修生  
1991年から大学で発生生物学を専門とする教育・研究に、2016年から質問をつくる学び場(ハテナソン)の研究開発・実践に、従事している。

**宮野公樹(みやの なおき)** 京都大学 学際融合教育研究推進センター(Cpier) 准教授  
専門分野:学問論、大学論、金属組織学、医療用マイクロデバイス、研究室運営、政策科学、科学技術政策、戦略的プレゼンテーション、コンセプトデザイン。著書:「学生・研究者のための使える!パワポスライドデザイン 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術」(化学同人)、「研究発表のためのスライドデザイン」「研究を深める5つの問い」(講談社ブルーバックス)他。

主催者:任意団体チームサイエンスコモンズ (Team Science Commons (TSC))

共催者: NPO 法人ハテナソン共創ラボ / 総合地球環境学研究所コアプロジェクト FS「知の接合: 社会—環境相互作用の共同研究における問題認識のずれを乗り越える方法論」 / 京都大学学際融合教育研究推進センター (Cpier)